

## 高津区おはなしアーカイブ

### ●石塚卯三夫(いしづか うさお)さん

大正13年生まれ 89歳

川崎市高津区久地在住



### ◆ご自身のプロフィールを

溝の口生まれで、戦後は久地に住みました。結婚して二子玉川に越しましたが、また久地に戻り現在に至っています。

尋常高等小学校卒業後は、市内の電気メーカーに就職し、午前中は働き、午後は技術系の学校に通う生活でした。その後、少年兵として軍隊に入

隊、終戦は伊豆七島の新島でむかえました。帰還してからは、警視庁に勤めましたが、縁あって製薬会社に移りました。結局そこで定年まで勤め、その後も子会社で75歳まで働きました。

### ◆どんな子ども時代を過ごされましたか

近所の有名な地主さんの「卯三郎さん」からお名前をいただいたのに、とにかく悪ガキというか元気な子でした。

当時の高津小学校の同級生には校長先生、町会議員、警察署長の子どもたちがいて、すでに教育熱心な学校と言われてました。皆で鳥を追ったり、畑から梨や桃を失敬したりしましたが、「なんだ、おまえら、そっちのよりこっちのほうが甘いぞ、こっちを持ってけ」と言われるような時代でしたね。

遊びを考えるのが大好きでガキ大将と言われてました。当時の遊びは、竹筒を鉄砲代わりにした兵隊ごっこや、チャンバラごっこです。当時は着物でしたから、羽織の袖を返して、簡単な手製かぶとを作って頭に乗せ、切り合うような遊びも面白かったなあ。大立ち回りで綿入れから綿が出て

も全然、気にしませんでした。かくれんぼや缶けりはその後でしょうか。自動車がめずらしくて、追いかけてましたよ。すぐ追いつけるような車の速度でしたけど。トラックなんか来ると、思わずぶら下がりましたね。

皆、鼻汁を袖で拭くものだから、袖口がテカテカに光ってましたっけ。

文房具屋のおばちゃんは恐かったなあ。今でも顔を思い出します。

### ◆特に小学校の思い出はありますか

1年生のときの遠足は津田山(宗隆寺裏あたり)でした。多摩川の川原でお弁当を食べましたが、本当にレンゲ畑が綺麗でした。菜の花、梨の花、桃の花などいつも美しい花に囲まれていた思い出があります。

修学旅行は、伊勢参りでした。慣れない旅に皆、列車酔いしてしまい、居眠りしてお土産の手彫りのお盆を落として割ってしまった子も一人ではありませんでした。本当に悲しかったです。自分達の方言でもある、語尾の「〜べ」を使わずに綺麗な言葉で話そうと言われて練習もしましたが、結

局無理でした。あらためて自分の居場所である「田舎」を意識しました。

それから、満州国から高津小学校を見学に来るということがあって、出迎える練習をしました。君が代と満州国の国歌を覚えるため3か月間練習しましたが、早く覚えたので褒められたのがうれしかったですね。当日は三年生以上が校庭で歌いましたが、今でも歌えますよ。

当時の子どもの楽しみは、神社のお祭りや、お会式の大人に連れていってもらうことくらいでした。溝口神社、二子神社の祭りの日は神社に参拝し、小学校は休みでした。

### ◆そのお祭りについてお話を聞かせてください

お会式は十一月、1年に1回寒いときでした。大山街道の縁日は2のつく日は二子、7のつく日は溝の口で開かれました。古本やお菓子の縁日があり、雑誌の少年倶楽部を買ったり、「いまさか」という餡子で作る餅を買って食べました。縁日では、照明にカーバイトを利用していました。とても明るいのでそのガスの匂いが忘れられません。

### ◆当時の子どもをとりまく大人たちの環境はいかがでしたか

私の父の出身は久地神社のあたりで、日露戦争を経験していました。そろばんなどの計算が速く、その血は私も受け継いだと思っています。

母の出身は世田谷で、「とにかく、本を借りてでも勉強しなさい」と勉学を重んじる人でした。日々、両親には感謝して拝んでいます。当時の親や大人たちの暮らしぶりは、

- 1、農業が中心でした（小作人）
  - 2、多摩川の河原の砂利採掘
  - 3、河川の工事関係
- など生活の基盤は多摩川でした。

### ◆その時の多摩川の様子をお聞かせください

昔の多摩川がいかに美しかったかは、子ども心にも自慢したいほどでした。久地の梅林のお花見から、夏の鮎漁、二子玉川の花火は三尺玉の大きなのが上がり驚きました。屋形船で遊ぶ都会人を見て羨ましくも思いました。水がとっても綺麗で、

鮎、やまべ、はや、なます、うなぎ、せいぞう等、

この地ではこのように呼んでいました。この美しい景色に作詞家、小説家も移り住んできました。

多摩川の砂利舟は有名で、兵庫島の手前から久地の河原では質の良い砂利が取れ、その砂利を下流の小向（川崎）まで二人から三人の船頭さんで急流を漕いでいきました。一番の難所は二子橋の下と父は言っていました。

### ◆町の様子は

大山街道沿いは二子橋から片町（下作延）まで全てのもが揃う商店街、近郷、近在、東は小杉から、西は菅、登戸、北は玉川、喜多見、用賀、南は宮前、荏田等からこの商店街を利用しました。今と比べると本当ですかと言われてしまいますね。街道沿いには、魚屋さんが五、六軒、家具屋さん三軒、呉服屋さんが四、五軒、下駄屋さん、酒屋さん、金物屋さん等大きなお店やさんがありました。町の人たちの職業も、大工さん、とび職、畳屋、建具屋等全ての高津の町で済んでしまうという便利な町でした。醤油、お酒、味噌、等

子どもがお使いに行くと、店のおばちゃんが顔を覚えていておまけをしてくれたことがあります。私が住んでいた地域には古くから屋号があつて、念仏屋、うなぎや、やがしら、土手ね、油やさん、面白いところでは、風船、お伊勢宮、お午やさん、車屋さん等いまだに通用しています。

#### ◆当時の食料事情は

食。パンにジャムを塗ったのが1枚10銭で、揚げたてのコロッケも食べるのが嬉しくて。

多摩川で「まるた」という魚が獲れましたが、小骨が多くて食べにくかったです。そのため、母親が、細かく切って煮てくれたのを覚えています。食べ物は、畑でとれる野菜と、川の魚が主で、肉類と言えば、ウサギや鶏は家で飼っていたので時々食べましたが、その他の肉は食べる機会もありませんでした。

台所には、藁と土で固めて作ったその家なりのかまどがありました。落ち葉や薪集めは子どもの仕事で、川の流木の乾燥もしました。

#### ◆戦争のときの思い出を

小さいときから、航空機関係の事が好きだったので軍隊に入ってから非常に役にたちました。当時の世界各国の航空機の性能全てを暗記していたので、初年兵が将校、先輩に教えたことが一番の思い出にあります。戦争が終わり復員をして来た時、高津の町が焼けていなかったことと、両親に「ただいまかえりました」と報告できたことが、一番うれしかったですね。

(平成25年9月2日)